

## VIII 家畜の改良



## VIII 家畜の改良

### 1. 概要

家畜の改良に関しては、本県の自然特性を生かし、資質及び能力を高めることによる生産性の向上を図るため、優良種畜の確保に努めているところである。

肉用牛においては、増体能力及び肉質の改善に重点をおいた効率的かつ組織的な改良増殖を促進するため、遺伝的能力評価値を利用した肉用牛群改良基地育成事業、人工授精普及推進事業等を積極的に推進している。また、おきなわブランドとしての肉用牛生産体制を強化するため、「定時・定量・定質」の出荷原則に基づく拠点産地の育成に努め、令和2年2月までに、肉用牛の「子牛」9地域、「肥育牛」2地域を拠点産地として認定している。

乳用牛については、家畜改良センターを活用した優良乳用牛の育成・供給及び県外導入や牛群検定による能力更新を推進し、安全で安心な県産牛乳を安定的に県民に供給していく。

豚については、家畜改良センターを種豚改良の中心に位置づけ、能力の高い種豚の生産・供給を行う。ランドレース種については、平成17年度から平成23年度までの計画で系統造成を実施し、平成24年度から繁殖性及び産肉性に優れた「系統豚造成豚（オキナワアイランド）」の供給を開始した。大ヨークシャー種及びデュロック種については、優良種豚の県外導入により能力向上を図っている。また、おきなわブランド豚増頭推進事業において、肉豚の生産性向上を図り、安心・安全・高品質なおきなわブランド豚及びアグーブランド豚の供給体制を整備する。

山羊については、平成30年度から令和3年度に実施したおきなわ山羊改良基盤整備事業において、肉用山羊1頭あたりの肉量増加を目的とした肉用山羊の改良を図るため、肉用山羊の改良体制の整備を行った。令和4年度からは山羊消費供給安定化事業として、飼養規模拡大に伴う課題を検証し、飼養管理技術の実証試験を行うことにより、多頭飼育における課題を解決し、1戸あたりの山羊飼養頭数の拡大を推進することで、県産山羊肉の供給体制の強化を図っていく。

## 2. 家畜の改良目標

### (1) 肉用牛

#### ア. 体型に関する目標数値（令和 12 年度）

体 高	胸 囲	かん幅	体 重
cm	cm	cm	kg
130	192	50	520

注) 数値は、成熟時（36ヶ月齢以上）の雌牛のものである。

体重は、適度な栄養状態にある雌牛のものである。（分娩前後を除く）

#### イ. 去勢肥育牛の能力に関する目標数値（12 年度）

肥 育 開 始 時		肥 育 終 了 時		枝肉重量	1 日平均 増体重	肉質等級
月齢	体重	月齢	体重			
ヶ月 8.5	kg 280	ヶ月 26～28	kg 790	kg 530	kg 0.88 以上	4.2

#### ウ. 繁殖能力に関する目標数値（12 年度）

初 産 月 齢	分 妊 間 隔
23.5 カ月	12.5 カ月

#### エ. 種雄牛の産肉能力に関する育種価向上値票数値（12 年度）

日齢枝肉重量	脂肪交雫
+47 g	現在の改良量を引き続き維持

### (2) 乳用牛

遺伝的能力の改良の推進と併せて、飼養管理の改善を図ることとし、能力及び体型に関する目標を次のとおりとする。

	品 種	能 力 (305 日 2 回搾乳)				
		乳 量	乳脂肪	無脂乳 固形分率	乳蛋白質	初 産 月 齢
現 在 (平成 30 年度)	ホルスタイン	kg 8,215	% 3.87	% 8.82	% 3.31	カ月 24.6
目 標 (令和 12 年度)	ホルスタイン	kg 8,500	% 3.90	% 8.85	% 3.40	カ月 24

(3) 豚

純粋種豚の能力に関する目標数値

	品種	繁殖能力		産肉能力			
		育成頭数	子豚 総体重	1日平均 増体重	飼料 要求率	背腰(ロース) の太さ	背脂肪層 の厚さ
現在	ランドレース	頭	kg	g		cm <sup>2</sup>	cm
	大ヨークシャー	8.5	59.0	1,061	2.9	32.4	1.6
	デュロック	9.2	68.0	1,043	2.8	32.2	1.7
目標 (令和12年度)	ランドレース	8.2	53.0	1,042	3.2	34.2	2.0
	大ヨークシャー	10.8	68.0	1,061	2.9	35.0	1.6
	デュロック	10.8	69.0	1,043	2.9	35.0	1.6
		8.2	53.0	1,070	2.9	35.0	1.7

- 注：1) 繁殖能力の数値は、分娩後3週齢時の母豚1頭当たりのものである。  
 2) 産肉能力の数値は、雄豚の産肉能力検定（直接検定）のものである。  
 3) 1日平均増体重及び飼料要求率の数値は、体重30kgから105kgまでの間のものである。  
 4) 背腰(ロース)の太さ及び背脂肪層の厚さは、体重105kg到達時における体長2分の1部位のものである。

肥育もと豚生産用母豚の能力に関する目標数値

	1腹あたり 生産頭数	育成率	年間分娩回数	1母豚当たり 年間離乳頭数
現在	頭 9.9	% 92	回 2.1	頭 19.1
目標 (令和12年度)	11.0	95	2.3	24.0

注：育成率及び1腹当たり年間離乳頭数は、分娩後3週齢時のものである。

肥育豚の能力に関する目標数値

	出荷日齢	出荷体重	飼料要求率
現在	日 199	kg 114	3.4
目標 (令和12年度)	183	114	2.9

### 3. 家畜改良関連事業

#### (1) 肉用牛群改良基地育成事業

この事業は、肉用牛の品種の特性を活かした効率的かつ組織的な育種改良により、産肉性等経済能力の向上を図るため、改良基礎牛の選定及び計画交配、産肉能力検定等による優良肉用種雄牛の選抜・確保、効率的利用を行うとともに、雌側からの改良の推進も行うもので宮古、伊江村、石垣島、久米島、今帰仁村、糸満市、やんばる、中部地区、南部地区和牛改良組合などを中心に事業を実施している。

令和7年度現場後代検定種雄牛



みやのはな  
宮之華 (美津忠平×北福波×勝忠平)

産地：宮古島市 直接検定 DG : 1.57



さなひら  
紗奈平 (美津忠平×幸紀雄×美国桜)

産地：石垣市 直接検定 DG : 1.14



なつのりか  
夏紀香 (夏百合×幸紀雄×安福久)

産地：石垣市 直接検定 DG : 1.01

令和5年度選抜種雄牛



ちゅらゆり  
美百合 百合白清2×美国桜×勝忠平

産地：今帰仁村 現検平均 BMSNo.10.1

#### (2) 人工授精普及推進事業

家畜人工授精等に関する知識及び技術に関する講習会を開催し家畜人工授精、家畜授精卵移植等の普及定着を図り、肉用牛の改良を効果的に行う。

### (3) 肉用牛優良繁殖雌牛ＥＴ活用事業

肉用牛優良繁殖雌牛群の能力向上を図るため、肉用牛拠点産地を中心に講習会等を開催するとともに、繁殖雌牛へのＥＴに係る経費の補助及びＥＴ産子の親子判定に係るＤＮＡ検査料の補助を行い、優良繁殖雌牛の生産・保留を促進する。

### (4) 種豚改良推進事業

家畜改良センターにおいて、純粹種（ランドレース種、大ヨークシャー種およびデュロック種）の産肉・繁殖能力および強健性等について改良を行い、優良種豚を県内農家へ供給している。



ランドレース種



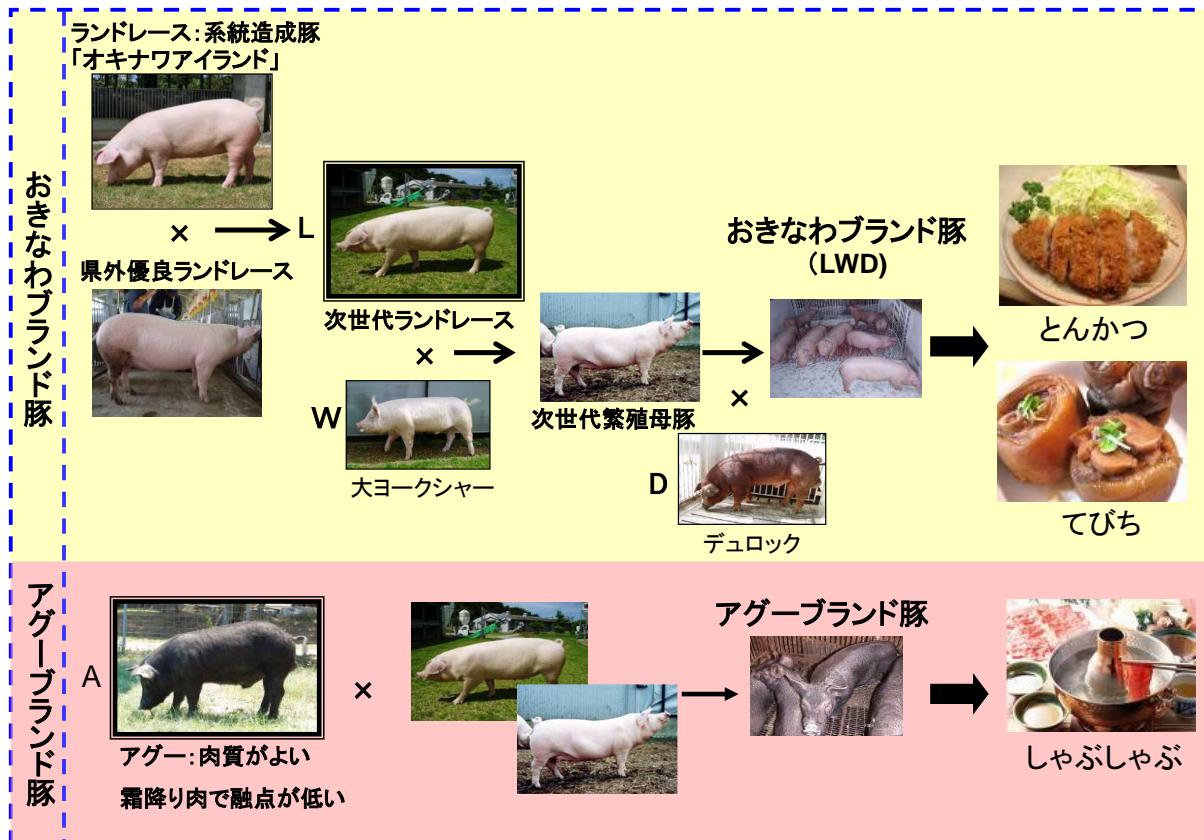
大ヨークシャー種



デュロック種

## (5) おきなわブランド豚増頭推進事業

近年、原油や飼料費の高騰により、養豚農家の経営が圧迫されていることから、生産性の高い肉豚生産が求められている。本事業では、オス系品種であるデュロック種の産肉性の改良を行い、おきなわブランド豚の増頭を推進する。



## (6) 山羊消費供給安定化事業

飼養頭数の増加や経営改善の面から県産山羊肉の供給安定化を図るため、多頭飼育における飼養管理技術の確立による飼養規模の拡大を推進する。飼養管理技術に関して、山羊生産農家へ飼養規模拡大における課題の聞き取り及び課題の検討会を行い、挙げられた課題に対して実証試験を実施する。また、実証試験にて得られた成果を生産農家へ周知するため技術講習会を開催し、生産農家の飼養管理技術の向上を図る。さらに、優良種山羊の導入支援により山羊生産組合における飼養規模拡大推進のサポートを行う。